

# 平成31年度 学校評価シート

学校名：和歌山工業高等学校(定時制) 学校長名：西村文宏 印

|                                |  |
|--------------------------------|--|
| めざす学校像<br>育てたい生徒像              | 生徒が輝く学校、地域とともにある学校、教師が夢を語る学校の3つの基本姿勢のもと、生徒・保護者・地域・教職員にとって魅力ある工業高校を目指す。 |
| 本年度の重点目標                       | 1 生徒一人ひとりを生かす丁寧な支援や指導に努める。   |
| (学校の課題に即し、精選した上で、具体的かつ明確に記入する) | 2 規律ある生活習慣を身に付けられるよう育てていく。   |
|                                | 3 自ら学ぶ意欲と考える力の育成を図る。   |

|                    |   |
|--------------------|---|
| 中期的な目標             | ○支援、指導のための情報共有、サポート体制の確立<br>○規律の中から生まれる自立心を基盤として、自主・自律の精神のもと、自ら学ぶ意欲を高め、学び続けられる力を育成する。<br>○教員のICT活用能力の向上、指導内容や授業方法の工夫と改善 |
| 学校評価の結果と改善方法の公表の方法 | 自己評価及び学校関係者評価の結果を、インターネットのホームページによって保護者をはじめ広く公表している。  |

|     |   |                  |
|-----|---|------------------|
| 達成度 | A | 十分に達成した。(80%以上)  |
|     | B | 概ね達成した。(60%以上)   |
|     | C | あまり十分でない。(40%以上) |
|     | D | 不十分である。(40%未満)   |

(注) 1 重点目標は3～4つ程度設定し、それらに対応した評価項目を設定する。 2 番号欄には、重点目標の番号を記入する。 3 評価項目に対応した具体的取組と評価指標を設定する。  
4 年度評価は、年度末(3月)に実施した結果を記載する。 5 学校関係者評価は、自己評価の結果を踏まえて評価を行う。

| 自 己 評 価 |  |  |  |   |  |     |  |
|---------|--|--|--|---|--|-----|--|
| 重点目標    |  |  | 年度評価 (3月16日現在)   |   |  |     |  |
| 番号      | 現状と課題  | 評価項目   | 具体的取組  | 評価指標  | 評価項目の達成状況  | 達成度 | 次年度への課題と改善方針   |
| 1       | <ul style="list-style-type: none"> <li>様々な課題や困難、就業環境や年齢の問題、社会への適応力、発達上の課題等を内包している生徒を適切に支援する必要がある。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>学習面や生活面の課題に対するサポート</li> <li>進路指導の取組</li> </ul>          | <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の実態把握に努め、個性を尊重しつつ、個の力を伸ばす。</li> <li>生徒情報の共有と組織的なサポート体制の確立を図る。</li> <li>生徒一人ひとりの就業状況の把握と、適切な情報提供により自己実現に向けて取り組む意欲の高揚を図る。</li> <li>生徒の意識向上に向けた進路関係行事を実施する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>教職員で情報を共有できているか。</li> <li>生徒が落ち着いた言動を取れるようになったか。</li> <li>定期的に、計画的に情報提供が行えているか。</li> <li>適切な時期に、計画的に行っているか。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>就業状況共有率は75%、また全体的な情報の共有率は85%であった。</li> <li>生徒の気持ちや意見を受け止めてくれていると感じている生徒が92%おり、教職員も特に上級生では落ち着いていると評価している。</li> <li>進路指導に対する高評価は、生徒が95%、教職員が80%であった。</li> </ul>           | A   | <ul style="list-style-type: none"> <li>本年度作成したシンクラ環境での生徒情報共有ファイルの活用率向上により、共有率100%を目指す。</li> <li>低学年でも落ち着いた学習環境を整え、勉学に向かわせるため、目標設定のためのガイダンス機能を充実させる。</li> <li>生徒評価は近年では最も高いものとなったが、100%を目指し、計画的・組織的な取組を工夫する。</li> </ul> |
| 2       | <ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な生活習慣や授業への取組姿勢、集団での規律ある行動等に課題のある生徒を適切に支援する必要がある。</li> </ul>        | <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒指導の取組</li> <li>特別活動の取組</li> </ul>                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒との信頼関係の構築</li> <li>校内外の巡回指導の実施</li> <li>非行防止や薬物、交通に関する講話の実施</li> <li>必要に応じた全体、学年アセンブリの実施</li> <li>生徒会行事の充実と生徒の主体的な企画運営</li> </ul>                                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>いじめ問題など問題行動の予防的指導が行われているか。</li> <li>それぞれ年1回以上の講話を実施したか。</li> <li>生徒会行事への生徒参加率の向上がみられるか。</li> </ul>                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>前項第2のとおり、生徒との信頼関係はほぼ構築できたと考える。規律指導に関する生徒の評価も86%が高いものであった。</li> <li>非行、薬物、交通に関する学習や指導に対する高評価は、教職員、生徒とも95%であった。</li> <li>生徒会行事への生徒の参加率は減少傾向にあり、特に生徒総会参加率が低かった。</li> </ul> | B   | <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒との信頼関係をベースに、各種の講話や全体アセンブリ等により、落ち着いた学べる環境を確保するとともに、問題行動の未然防止にさらに努めていく。</li> <li>生徒会行事の内容等について見直し、生徒の声を反映した参加しなくなるような活動につながるよう、工夫、改善に努める。</li> </ul>                            |
| 3       | <ul style="list-style-type: none"> <li>教材の工夫や学習への動機付け等、生徒の実態に応じた授業改善の取組を推進する必要がある。</li> </ul>                | <ul style="list-style-type: none"> <li>基礎学力の充実</li> <li>ICTの活用</li> <li>実習、実験、体験の重視</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の実態に応じて授業内容を精選し、基礎・基本の徹底を図る。</li> <li>スマートルームの活用や、体験や活動を取り入れた興味をわく、わかりやすい授業づくりに努める。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>基礎学力の向上がみられるか。</li> <li>生徒の学校評価における達成度75%以上。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒による高評価は、分かりやすさが95%、授業の工夫が89%と、ともに上昇し評価指標を達成できた。</li> <li>一方、教職員の高評価は、個々に応じた指導が70%、授業の工夫が60%という結果であった。</li> </ul>  | A   | <ul style="list-style-type: none"> <li>基礎学力を測る指標の作成に取り組み、評価、授業改善につながるよう努める。</li> <li>互いに授業研究を行う機会を設け、他者からの評価をポジティブにとらえ、自信を持って授業改善に努められるよう取り組む。</li> </ul>  |

| 学校関係者評価   |  |
|---|--|
| 令和2年2月10日実施   |  |
| 学校関係者からの意見・要望・評価等   |  |
| <p>校長を除いた本校の学校運営協議会委員9名に学校評価アンケートを依頼し、8名の方から回答を得た。</p> <p>その結果は概ね高評価であった。</p> <p>また、次のようなご意見やご提言もいただいた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>支援の必要な生徒への取組を今後も大切にしていってほしい。</li> <li>少人数ながら、働きながら学ぶ生徒の姿勢にやる気と意志の強さを感じた。</li> <li>今後は、教職員のワークライフバランスについても評価項目としてあってもよい。</li> <li>O・B、O・Gとの定期的な交流や、地元企業、大学との連携も企画できるとよい。</li> </ul> |  |